

社団法人 京丹後青年会議所
2013年度スローガン

「挑戦」を楽しもう!

～その一歩が人を成長させ人をつなぐ～



社団法人 京丹後青年会議所

2013年度理事長 三木健徳

「ごあいさつ」

平素は私も社団法人京丹後青年会議所に
対しまして、温かいご支援・ご協力を賜りあ
りがとうございます。

早いものであっという間に季節は夏となり
ました。夏といえば甲子園。3年生にとつて
は、高校生活最後の夏ということで、悔いの
残らないように一球入魂、すべてのプレーに
全力を尽くす姿に、毎年とても感動させられ
ます。私達青年会議所も40歳までの限られた
時間ですが、高校球児のように感動を与えら
れるような活動をしたと思います。

本年度は「挑戦を楽しもう!」の一歩が
人を成長させ人をつなぐ」のスローガンを
掲げ活動を行っており、メンバー個々がさま
ざまな活動を通じて確実に自分の成長と多く
のつながりを実感し始めている時期でありま
す。そうした中、我々の活動に共感頂き、新
たに5名の元気な新入会員を迎えました。残
すところ5ヶ月ですが改めて今一度気持ちを
引き締め、メンバーと地域の皆様にとつて有
意義な年にしなければならぬと考えていま
す。

これまで地域の皆様には各事業を通じて本
当に多くの温かいご支援を頂いておりますこ
とに、心より御礼申し上げますとともに、引
き続きご支援、ご協力の程お願い申し上げご
挨拶に代えさせていただきます。

JC PRESS 夏号

京丹後市消防団

シリーズ「つなぐ・つながる」 vol.2

（社団法人京丹後青年会議所では、このまちで活動をされている個人や団体の皆様と連携を図り、
手を取り合いながら共に活動して参りたいと考えております。そこで広報・会員拡大委員
会では、地域のひととひとの繋がりの更なる強化がより良いまちづくりに繋がると考え、私
達と同じ思いで活動されている地域の様々な方に、その活動の様子や思いを伺って参りま
す。そして、その様子を京丹後青年会議所新聞で広く発信し、今後の地域コミュニティの
あり方を市民の皆様と共に考える一つのきっかけにしたいと考えております。

京丹後市消防団に ついて



京丹後市消防団
羽賀義昌 団長

今回は、火災や大規模
災害発生時に自宅や職場
から現場へ駆けつけ、そ
の地域での経験を活かし
た消火・救助活動を行う
「京丹後市消防団」の団
長を努めておられる羽賀
義昌氏にお話を伺いまし
た。消防団は、郷土愛護
の精神に基づいて民間の
有志によって組織され、
地域における消防防災の
リーダーとして、地域に
密着し、市民の安心・安
全を守る重要な役割を担
っています。現在、京丹
後市の消防団は26分団、
1677名の団員が活動
されており、その内9名
が女性団員で、高齢者宅
へ防火の声かけ訪問や保
育所などで行う火災予防
の紙芝居等の啓発活動を
主な役割とされています。

「消防団なんて!」と
いうタイプの人間でし
た。そうした時に地元で
大きな火事があり、地域
の方や消防団が現場に駆
けつける中、自分は何も
できませんでした。その
時に味わった自分の無力
さが入団のきっかけとな
り、翌年に入団を決意し
ました。入団後は、仲間
と共に操法の訓練に明け
暮れ、記録では京都府で
1位になったこともあ
り、団員にとつても、地
域にとつても大きな自信
となりました。個々の力
は知れているが皆が一つ
の目標に向けて力を合わ
せることで目標を達成で
きるということを学びま
した。また、消防団とは
単に地域防災の組織だけ
ではなく、地域の人々と
の人間関係を醸成するこ
とができる場だと思っ
ています。例えば、操法や
各種訓練、時にはお酒を
酌み交わす中で、人間関
係を築くことは地域にと
つても非常に大きな財産
ではないでしょうか。

す。これは、産業・就業
構造の変化と地域社会の
変貌、地域社会への帰属
意識の希薄化等の社会環
境の変化が団員数の減少
に繋がっているのではな
いかと思います。この流
れを止めるには、周囲の
活動への理解と消防団の
社会的地位の向上が必要
だと感じています。ま
た、今の若い方を見てい
て大勢が集まって何かに
取り組むというところに
増えてきているように感
じます。自分達の住む地
域や消防団においても同
じですが、人と人との繋
がりによって成り立って
います。若い方には、も
っと地域の活動や消防団
に参加して頂きたいと思
っています。郷土に愛着

を持つ青年を中心とした
多くの同志が集まる消防
団で、力を合わせて一つ
の目標に向けて取り組む
ことの素晴らしさを若い
人にも味わってもらいた
いですし、その素晴らし
さを次の世代に伝えるこ
とも我々の使命だと思
います。



地域コミュニティの 力が多くの命を救う

いざという時の ために

自分の無力さが
入団のきっかけに
私は、消防団に入団す
る前は、団体行動が苦手

現在、消防団の抱える
問題として、団員数の減
少があります。若者層の
市内在住人口における入
団者率の低迷は顕著で



東日本大地震で津波被
害を受けたある集落の話
ですが、日頃の防災訓練
と地域住民同士の繋がりが
がしっかりとできていた
ため犠牲者数が非常に少
ない地域がありました。
そこは人口が200名程
の高齢化が著しい漁師町
でしたが、消防団や地域
住民同士の繋がりが一時
はその集落の人全員が高
台へ避難したそうです。
このようなことができた
のは、地域住民同士の日
頃のコミュニケーション
があり、お互い顔見知り
で、それぞれの家族構成
まで知り合う、住民同士
の強い繋がりが築けてい
たことが一つの大きな要
因ではないかと思いま
す。まさに地域コミュニ
ティの力が多くの方の命
を救ったのです。

消防団の活動はやれば
やるほど目立つわけでは
ない方が良いでしょう。そ
れは、私達が防火活動を
行つて、実際に火災や災
害が無いことが一番の
「勲章」だと思つていま
す。いざという時のため
に訓練を行い、防災活動
に於いては市民の方々に
啓蒙活動を行い、地域コ
ミュニティの力を深める
こと、今後もそうした地
道な取り組みを大切に思
います。

今後は、私達一人ひと
りが防災という観点から
も地域コミュニティ形成
の大切さについて、今一
度見つめ直し、しっかり
と次の世代へと受け継い
でいくことが重要だと思
います。

新入会員紹介



4月入会

くしだ たすく
榎田 啓 (31歳)

(社福)みねやま福祉会 児童養護施設
峰山乳児院付設幼児寮
京丹後市峰山町室27-2



4月入会

たなか ひでか
田中秀佳 (30歳)

御半
京丹後市峰山町杉谷1090



4月入会

なかやま りょう
中山 良 (30歳)

中山商事(株)
京丹後市峰山町杉谷657-1



4月入会

やすい みきお
安井幹雄 (32歳)

(有)ヤスイフーズ(味喜屋)
京丹後市網野町新庄679



7月入会

あだち みちひろ
足立通啓 (28歳)

(株)FREE SECTION
京丹後市久美浜町丸山118

6月16日、今回で6回目を迎えた「小学生ウルトラクイズ in 京丹後」を京丹後市内の5、6年生を対象に開催致しました。この事業は、京丹後市内各所をバスで移動しながら、実際に自分の目で見て、触れて、感じて頂きながら、クイズを通して京丹後の歴史や伝統などを学び、郷土愛を育んで頂くことを目的として開催しています。

新たなまちの魅力を発見し、より身近に感じて頂くことができたものと思います。また、その日だけでは切り切れなかったこの地域の魅力を「京丹後まちの魅力講座」として伝えることで、自分達の住むまちの素晴らしさを更に深く知って頂くことができたと思います。主催する私達青年会議所メンバーも必死になつてメモを取り、解説に耳を傾ける子ども達の真剣な姿を見て、この事業開催の意義を改めて感じる事ができました。

また、例年2名1チームの募集を今年は個人での募集に変え、当日初めて会う子ども達とチームを作り、1日を共に行動することで人と人との繋がりの大切さを学んで頂くことも目的の一つとして開催致しました。最初はなかなか打ち解けることができなかった子ども達も、時間が経つにつれて仲良くなり、チームで考えるクイズでは、個々が取っていたメモをお互い見せ合い、互いに恥ずかしがりながらも、子ども達同士で意見を出し合い、チーム一丸となつて取り組む姿が見られ、感銘を受けました。

今回の事業で、新しい仲間が出来ることの喜びや、共に助け合うことの素晴らしさなど、たくさん感じました。子ども達も成長して中学校や高校に行き、今回の事業で出会った友達に再会した時、この事業のことを思い出して、ひいては人と人とのつながりの素晴らしさに気付いてくれると

大変嬉しく思います。最後にになりましたが、今回事業に参加してくれた子ども達はもちろん、送り出して頂いた保護者の皆様、本事業の趣旨をご理解頂きご協力頂きました協賛企業各社の皆様にごりがとうございました。

第6回 小学生ウルトラクイズ in 京丹後

～学ぼう! 京丹後の魅力 広げよう! 友達の輪～



主催/ (社)京丹後青年会議所 後援/ 京丹後市教育委員会

協賛/ 丹後海陸交通株式会社 株式会社 安達住設(フロレスタ京都河原町店) コカ・コーラ ウエスト株式会社 京都府農業公園 丹後あじわいの郷 株式会社 丹後乳販 富田電気通信株式会社 (auショップ) 株式会社 にしがき 株式会社 マルハン プラザアピア峰山 峰山商業開発株式会社 株式会社 淀徳商店

編集後記

京丹後青年会議所新聞の夏号を発行するにあたり、ご協力を賜りました京丹後市消防団団長羽賀義昌様に、先ずは心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

私達、広報・会員拡大委員会では、今後もこのまちで活動をされている個人や団体の皆様に取材を進め、12月に本年度最終号となります京丹後青年会議所新聞を発行して参りますので、是非ご覧頂きたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

本年度、(社)京丹後青年会議所では「JCプレス」を京丹後市のご家庭に新聞折込させていただきます。※季刊誌として年内3回発行予定(1月・7月・12月) 記事に関するご意見、ご質問等ございましたら(社)京丹後青年会議所/ 広報・会員拡大委員会までお寄せください。

〒627-0041 京丹後市峰山町菅373番地 ふきあげビル4階401号
TEL.0772-62-3153 FAX.0772-62-3120
info@kyotangojc.com

www.kyotangojc.com

京丹後JC WEB 京丹後JC 検索

「一生の友に出会える」

人は誰でも、悩み判断に迷う時には誰かに相談したくなるもの。それが会社経営のことなら尚更だ。そんな時、自分と同じ立場で相談できる友がいる。それだけでもきっとあなたは救われるはず。かけがえのない一生の友ができる。あなたの入会をお待ちしています。



JCI 京丹後青年会議所 会員募集中

JC PRESS 夏号 巷談

「世界一幸せな国」世界178カ国で行われた幸福度調査で第一位となった北欧の国デンマークはそう呼ばれる。この国は国民の経済的格差が世界で最も小さい▼デンマークでは国民の生活は国の責任において保障されている。医療費はもちろん、教育や年金などのための拠出が無料である。しかし、その分税金が高い。高福祉・高負担を掲げ、所得税50%、消費税25%と世界で一番税金が高い国でもある。その負担は楽ではないが、人々は自分の払った税金の使い道が目に見えて分かるので高い税金でも受け入れていく。デンマークには、国民の「権利」としての福祉が明確に存在している▼そんなデンマークを訪ねた際に私は訪問先で知り合った若者に質問をした。まず、「デンマークは世界一幸せな国と言われていますがあなたは幸せですか?」と尋ねると少し驚いたような表情で「あなたは幸せじゃないの?」と聞き返された。更に「他人の幸せが気になりますか? 人によって幸せの捉え方は違うと思います。私は「世界一幸せ」を意識したことはありませんが、幸せかどうか問われれば幸せですよ。」と笑顔で答えてくれた▼次に別の若者に

「デンマークの財務大臣は26歳と聞きましたが若すぎるとは思いませんか?」と尋ねた。この質問に対しては「何故そのような質問をするのですか?」と、もはや質問の意図が分からないといった様子であった。そして、「彼(財務大臣)は大変優秀な方です。特に年齢は気になりません。」と答えた。いずれにしても、これらの答えには、違いを認め合い個性を大切に▼デンマークの国民性は現れていない管理・自己責任の思想が生きていない。それは、過去の戦争に敗れ、狭い国土、厳しい天候、貧しい資源というデンマークにおいて、最も重要な資源は「人」であるという考えから、デンマーク人としての自覚を高める教育が行われたからだという▼わが国にも、狭い国土、厳しい天候と天災、乏しい資源、そして敗戦の中で知恵を絞って、助け合って忍耐強く苦難を乗り越えてきた日本人としての誇りや強さがある。こうした日本人らしさを今更以上以上に我々一人ひとりが価値あるものと認識して主体的に生活していくことができれば、他者との比較からではなく、自ら高い幸福を実感することが出来るのではないだろうか。